

たより



平成 28 年 12 月 1 日
伊勢市教育研究所
伊勢市桜木町 55-1

平成28年度 学びのグレードアップ総合推進事業(教育研究所版) 公開授業研究会 開催のご案内

有緝小学校公開授業研究会

総合的な学習の時間

「わたしたちのまち 河崎」

- ◆日時：平成 28 年 12 月 6 日 (火)
- ・受付 13:20~13:45
- ・公開授業 13:45~14:30
※6年3組 指導者：山村 勝人
- ・研究協議 14:50~16:30
- ・助言者 松村 勝順 先生
(歴史資料作成委員会助言者)

(指導者より)

河崎は、勢田川の水運を活かした問屋街として知られ、特に江戸時代からは伊勢神宮の参宮客への物資を供給する「伊勢の台所」として栄えました。現在でも軒を連ねた古い町家や商家の蔵、特徴的な街なみが残っています。有緝小学校の6年生は、河崎のまちを歩き、河崎の人と出会う中で、まちの歴史を知り、そこに住む人の思いについて、調べたり考えを出し合ったりしながら、学習を進めてきました。また、子どもの学びの支援のために、9月から導入されたタブレット型端末を活用しています。

【めざす子どもの姿】

自ら課題を追究し、
つながり高め合う子ども

宮山小学校公開授業研究会

社会科

「蓮台寺柿をもっと知ろう」

- ◆日時：平成28年12月8日(木)
- ・受付 13:20~13:40
- ・公開授業 13:45~14:30
※3年A組 指導者：山本 幸加
3年B組 指導者：二村 有希
- ・研究協議 14:45~16:30
- ・助言者 西 良孝 先生
(社会科副読本資料作成委員会助言者)

(指導者より)

宮山小学校では、毎年3年生が伊勢市の天然記念物である蓮台寺柿の学習を行います。子どもたちは、校区にある柿農家で働く人々の姿を見たり、日々色づき、成長していく柿の観察や収穫体験を行ったりしてきました。

この単元では、柿をつくっている農家の方や、地域に住んでいる人々との出会いを通じて、今まで当たり前のようにある蓮台寺柿は、たくさんの人たちに守られ、育てられていること、その当たり前を守っていくために、これから自分たちに何ができるのかを、子どもたちと一緒に考えていきたいです。

夏季休業中教職員研修講座を振り返って③



【特別支援教育】 「発達につまずきのある子の輝かせ方 Part2」

開催日：平成28年8月17日（水）

昨年度に引き続き、川上康則先生（東京都立青山特別支援学校 特別支援教育コーディネーター）にお越しいただき、「発達につまずきのある子の輝かせ方」という演題でお話しいただきました。以下に講演の様子についてまとめました。

「子ども理解の守備範囲を広げよう」

川上先生がまず話されたことは、「子ども理解の守備範囲を広げよう」ということです。教師の守備範囲が狭いままだと、子どもの言動のちょっとしたことが許せなかったり、対応できないことを子どものせいにしてしまったりします。それに対し、守備範囲が広がると、子どものちょっとした成長に気付いて嬉しくなりますし、対応できないときに、「次は対応しよう」と、自分を磨くようになるものです。

例えば、「授業態度が悪い」「学習意欲が低い」と言われる生徒の場合、「うまくいかなさ」の歴史を物語っていることがあります。これまでの失敗経験の多さが原因で、もともとのつまずきを隠そうとしてしまうのです。分からないことやできないことを素直に伝え、支援を求めるためには自尊感情が必要なのですが、自尊感情が低いと、「失敗恐怖」から「どうせおれなんか…」「何をやったって無駄だし…」といった発想にいたりします。

学習意欲が低くみえたり、授業からの逸脱行動が多かったりする姿にも、見方を変えると、関わり方は大きく変わってきます。

「自尊感情とは」

自尊感情とは、「外見・性格・特技・長所短所・病気や障がいなど、全ての要素を包括した意味での『自分』を自分自身で考えること」とであると、川上先生は話されます。劣等感やできないという気持ちなども、自分の一部だと受け止める力が必要なのです。

「自尊感情を保つ条件」は、「欠点を長所ととらえる発想」「他者がハンディキャップと考えることを自らはねのける気持ち」「他者よりも苦手なところも逆に優れているところもある、それが自分だと思える気持ち」とであると話されました。

できない経験を繰り返すと、往々にして子どもは頑張ろうとしなくなります。わからない経験を繰り返すと、理解しようとしなくなります。やってもらおう経験を繰り返すと、自分でやろうとしなくなります。

「こまった」「わからない」「むずかしい」「思いどおりにいかない」ことは、恥ずかしいことではないと伝えてあげることが大事です。そして、そんな時のヘルプコールとして、「手伝ってください」「わからないので教えてください」「聞き逃したのでもう一度教えてください」「助けてください」…と言える援助要求スキルを身に付けさせることが、子どもの将来を支えます。同時に、安心して「わからない」と言える学級をつくっていくことが大切です。

発達につまずきのある子の輝かせ方

発達につまずきのある子どもの輝かせ方

その1

「援助要求スキル」を教えることで、問題場面を減らそう

※自尊感情が低いと、さらに傷ついてしまうことを恐れて、援助を求められないことがある。

発達につまずきのある子どもの輝かせ方

その2

「分かる人？で進める授業」よりも「安心して分からないと言える教室」にしよう

※「分からない人？」という質問には答えにくいけれど…「えっ？アレっ？と思った人」「もっと考えるヒントがほしい人」「なんだかスッキリしていない人」は答えやすい。

発達につまずきのある子どもの輝かせ方

その3

素直に言えない子どもの 気持ちを汲もう

発達につまずきのある子どもの輝かせ方

その4

「お試し行動」を理解し、 教育や子育ての軸が ブレないようにしよう

※子どもは追いかけてもらいたくて逃げたり、隠れたり、暴力的に振る舞ったり、駄々をこねたりすることがあります。その行動の背景には、「どこまで許してもらえるか」という愛着の確認という側面、行き過ぎた時には、大人から毅然と「ダメ！」というサインを出してほしいという側面があります。甘えてくる側面と、あえて不適切な行動をとる姿が混在することがありますが、どちらも「大人の気を引きたい」という思いがあります。

「お試し行動」への対処法

- ◆堂々と 毅然と おだやかに
- ◆焦らず 慌てず あきらめず



大人が大人としてふるまうことで
子どもを混乱させずに済む

支援者のタイプ	子どもの反応
(1) 威圧的・高圧的	<ul style="list-style-type: none"> ・その人の前だけはおとなしい。 ・その人がいるだけで落ち着かなくなる。
(2) 機械的な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・励まされた、誉められたという実感がないので、行動修正につながりにくい。
(3) 表情に動揺が出てしまう	<ul style="list-style-type: none"> ・からかいのターゲットになりやすい。
(4) 要求どおりに 応えすぎてしまう	<ul style="list-style-type: none"> ・王様のようにふるまう。 ・行動がエスカレートし、手に負えなくなることも。
(5) ブレない、動じない、揺らがない、 かつその子の持ち味を引き出す	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて行動できるようになる。 ・完全に問題行動が消えるか、漸減する。

発達につまずきのある子どもの輝かせ方

その5

まずは教師と子どもをつなぐ 縦糸を太くしよう

発達につまずきのある子どもの輝かせ方

その6

子どもの価値を引き出そう

発達につまずきのある子どもの輝かせ方 その7

ほめ方・叱り方のコツは、どちらも短く、太く！

※本当は、「ほめられなくても、行動する子」に育てることが大切。

価値づけ：「誰だろう？ここに落ちていた〇〇をそっと拾ってくれたのは？」

※「子ども」を叱るのでなく、「行動」を叱る。

※子どもの「意欲」まで否定しない

- ×可能性の扉を閉じる叱り方 「やる気あるの？」
- ×過去の過ちを持ちだす 「そういえばこの前も…」
- ×決めつけた言い方 「いつもいつもあなたは…」
- ×1分で話せることを、15分以上ネチネチ話す

◎ハッピーエンド：「そう、それ！」で終わる叱り方に！

ほめ方のコツ＝短く太くほめる

1 感嘆詞を使う

「おー」(感嘆)、「あー」(納得)、「いい!」(同意)

2 行動をそのまま2回言う

「うん、書いてる書いてる!」

3 続けるべきであることを伝える

「そう、その調子!そのまま続けて!」

※大切なのは、「言い方」より「タイミング」

※ホメ言葉には、皮肉の意味をこめない

「やればできるじゃない」

…(いつも、ちゃんとやらないからできないんだ)

「今日は、がんばっているじゃない」…(普段はサボっている)

★大人っぽいほめ方を期待する子どもに効果的なベスト5

- ①「読みが深い」
- ②「見方が鋭い」
- ③「スケールが大きい」
- ④「着眼点が違う」
- ⑤「〇〇がいてくれるから助かる」

↓ホメ言葉の裏に…

発達につまずきのある子どもの輝かせ方

その8

親子の歴史を尊重しよう

※孤立感、自責の念、「遅れ」への漠然とした不安・焦り、家族・親族が受け入れない、近所で遊べない、謝罪の日々、理解者不在…
親子には尊重すべき歴史があります。

※「家庭でよく言い聞かせてください」でなく、せめて、何を、どのように言い聞かせると効果的か伝えましょう。ただ単に「言い聞かせて」と伝えるのは、ただ単に保護者を追い詰めているだけです。

発達につまずきのある子どもの輝かせ方

その9

つまずきの背景要因を氷山モデルで理解しよう

発達につまずきのある子どもの輝かせ方

その10

子どもの学びにくさから授業を見直そう

発達につまずきのある子どもの輝かせ方

その12

通常の学級の特別支援教育は、実は授業改善と集団づくりが最大のポイントとなる

発達につまずきのある子どもの輝かせ方

その11

◆支援を要する子は、「常に支援される側にいる子」ではありません。

◆合理的配慮を充実させるためには、実は、学級経営のあり方がきわめて重要です。

◆クラスに子どもの居場所があるか？
「頼りにされる」「必要とされる」という場面があるか？を常に意識しましょう。

特別支援って、
どんな教育？

「うまくいかない」ことがある子どもの「価値」を高める教育

【参加者アンケートより…】



- ◆教育の原点は特別支援教育だと、川上先生の話聞かせていただき、つくづく感じました。一人ひとりを見つめ、輝かせることのできる教師をめざしたいと思った。
- ◆自分が変わることで、クラスの子たちが輝ける場面をつくりたいです。
- ◆とても参考になりました。見方・考え方がずいぶん変わりました。
- ◆視野を広げることの大切さがわかりました。ほめ方もしかり方もなかなか上手にできなかったのが、参考にさせて頂いていきたいなと思いました。



講演される川上先生